

平成 25 年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ フカヤ カズヨシ
氏名 深谷 和義

研究期間 平成 2 5 年度

研究課題名 受講者の模擬授業を重視した情報科教員養成向け授業実践

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	深谷 和義	教育学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

高等学校教員免許取得のために必要な教職に関する科目のうち、教科の指導法は、受けようとする免許教科ごとに単位を修得する必要がある。教科「情報」については、各大学において「情報科教育法」等の授業科目名で4単位開設されていることが多い。文部科学省は、「教職に関する科目の趣旨」の中で、「教育課程及び指導法に関する科目」に関して、教科書等の授業で教える内容を知っていることだけでなく、実際に授業において、指導できることを求めている。そこで、本研究では、情報科教育法の授業において、模擬授業を重視することで教育効果が高まることを実践により検討する。

2. 研究方法等 (300 字以内で記述)

筆者が担当する3年次後期の「情報科教育法II」において、模擬授業を中心とした授業を実践した。教科「情報」は講義形式での授業だけでなく、実習を伴う。そこで、講義型模擬授業と実習型模擬授業の2回を全員に課すことにした。模擬授業は、受講者全員を抽選で分けた1～2名ずつの6グループで担当させた。各グループの受講生に50分間の模擬授業を行わせた。その際、模擬授業に対して、受講者同士で相互評価させた。模擬授業後の残り時間で、受講生同士の質疑応答による議論を行い、最後に筆者がコメントをした。受講者が教科「情報」に対する指導力を身に付けたかどうかを調べるために、2種類のアンケート調査を行った。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

1. 教科書の理解度

教科書理解に関するアンケート結果では、使用した「高校情報 A」の教科書における 50 個の単元ごとに、「ほとんど理解していた」「ある程度理解していた」「あまり理解していなかった」「ほとんど理解していなかった」で回答させた。回答に対して、「ほとんど理解していた」から順に 4, 3, 2, 1 点として平均を出した。その結果、3 点以上が 17 単元、2 点以上 3 点未満が 24 単元、1 点以上 2 点未満が 9 単元であった。また、すべての単元を平均すると 2.60 点であった。模擬授業で実施した単元における理解度を講義型では平均 2.71, 実習型では平均 3.00 であった。受講者が単元を選んだ実習型の方が、理解度が高かったことが分かる。

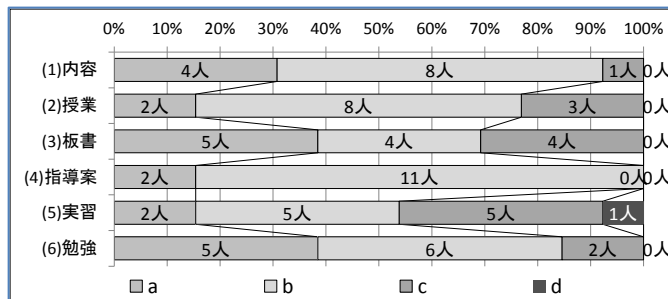
2. 模擬授業の相互評価

模擬授業に対する相互評価は、毎回 5 を最高に、5～1 の 5 段階とした。一人一人に対する評価の平均値で講義型では 3.71, 実習型では 3.53 であった。自分たちで単元を選んだ実習型模擬授業の方が、教科書の理解度が高かったにもかかわらず、相互評価は低くなっていることが分かる。これは、実習型は、受講生のパソコン操作があり、自分が分かっていることと、授業を円滑に行えることとがかなり異なることが原因だと考えられる。

3. 授業実践後の意識

最終授業時に行ったアンケート結果を下図に示す。図で、(1)～(6)は、(1)「高校の共通教科『情報』の内容が分かったか」、(2)「人前で授業ができるようになったか」、(3)「授業で板書ができるようになったか」、(4)「学習指導案が書けるようになったか」、(5)「教育実習に行っても授業ができるようになったと思うか」、(6)「半年間トータルの情報科教育法 II での勉強時間は他の授業に比べて多かったか」である。

回答は、(1)なら「a 分かった」「b ある程度分かった」「c あまり分からなかった」「d 分からなかった」のような 4 件法とした。それぞれ順に 4 点から 1 点として、平均は、(1)3.23 点, (2)2.92 点, (3)3.08 点, (4)3.15 点, (5)2.62 点, (6)3.23 点であった。模擬授業を多く実施したことで、授業ができる自信がただけでなく、教科書の内容がある程度理解できたと思えるようになったといえる。



4. キーワード (本研究のキーワードを 1 以上 8 以内で記載)

①教員養成	②情報科教育法	③学習指導案	④模擬授業
⑤大学			

5. 研究成果及び今後の展望

(公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

深谷和義: “情報科教員養成における模擬授業中心の授業実践”, 第 38 回教育システム情報学会全国大会, pp. 173-174, 2013.9.3 発表

深谷和義: “受講者の模擬授業を重視した情報科教員養成向け授業実践”, 椋山女学園大学研究論集 (自然科学篇), vol. 45, 2014.3.1 発行予定